

ヘブル人への手紙 2章14-18節 イエスは、はるかにすぐれた人として来られた

聖書のヘブル人への手紙 2章14-18節を開いてください。先週、この箇所直前の節を通して、イエスが私たちにとって「より良い兄弟」であることを見てきました。そこから、イエスは私たちにより良い家族を与えてくださる方であるということをお話ししました。しかし、このことを理解するためには、まず一つの大前提があります。それは、イエスが人となられたということです。つまり、イエスは私たちと同じように肉なる存在となられたのです。この考えは、ヘブル人への手紙2章の少し前のところにも見られます。9節にはこう書かれています。9 **ただ、御使いよりもわずかの間低くされた方、すなわちイエスのことは見えています。イエスは死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠を受けられました。その死は、神の恵みによって、すべての人のために味わわれたものです。永遠の神の御子であるイエスは、天の栄光を離れ、罪に満ちたこの世界に来られました。そしてこの世界は、イエスを拒み、犯罪人の一人のように彼を殺したのです。クリスマスに私たちが祝うのは、神が人となられた出来事、すなわち受肉です。ある賛美歌（「キリストのみに」）の一節にもあるように、「この世に来られた、神のひとり子は…」、神の一人子がこの世に来られたのです。使徒ヨハネは、御言葉であるイエスの受肉について、次のような美しい言葉で語っています。ヨハネの福音書1:14には、「14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。」と述べられています。イエスが人となられたという点は、重要な点です。実際、それは必要なことでもありました。イエスが私たちの一人となり、完全な人であり、同時に完全な神であることが必要だったのです。今日の聖書箇所は、そのことを私たちに示しています。救いのためには、完全に人である救い主が必要でした。私たち人間を、罪にあるこの人間の状態から救うために遣わされた救い主が必要でした。イエスこそ、その人でした。より良い人です。それでは、これから今朝の聖書箇所を読みましょう。14 **そういうわけで、子たちがみな血と肉を持っているので、イエスもまた同じように、それらのものをお持ちになりました。それは、死の力を持つ者、すなわち、悪魔をご自分の死によって滅ぼし、15 死の恐怖によって一生涯奴隷としてつながれていた人々を解放するためでした。16 当然ながら、イエスは御使いたちを助け出すのではなく、アブラハムの子孫を助け出してくださるのです。17 したがって、神に関わる事柄について、あわれみ深い、忠実な大祭司となるために、イエスはすべての点で兄弟たちと同じようにならなければなりません。それで民の罪の宥めがなされたのです。18 イエスは、自ら試みを受けて苦しまれたからこそ、試みられている者たちを助けることができるのです。****

イエスは、より優れた人間です。そしてこれは重要なことなのです。なぜなら、罪にある人間の状態から私たちを救うためには、私たちと同じ完全な人間である救い主が必要だったからです。この言葉には三つの重要な要素があります。そしてこの箇所では、その三つがはっきりと示されています。それぞれが、イエスの人間性を理解するうえで重要です。まず第一に、この箇所が教えているのは、救いのためには完全に人である救い主が必要だということです。14節は、もし私たちがイエスの家族に属しているなら、イエスは私たちの兄弟となってくださった、しかも私たちよりも優れた兄弟である、という説明に続いて語られていることを思い出してください。14節は、私たちが「**みな血と肉を持っているので、イエスもまた同じように、それらのものをお持ちになりました**」と語っています。イエスが血と肉を持つ方として語られているということは、イエスが完全に人であったことを意味します。もしイエスの体を切れば血が流れ、足の指をぶつければ痛みを感じました。鞭で打たれ、いばらの冠を頭に押しつけられ、粗い木の十字架に手と足を釘で打ちつけられたとき、引き裂かれたのは本当の肉であり、流れ出たのは本当の人間の血でした。私たちと同じように、そのすべての痛みを実際に経験した一人の完全に人である方が、十字架の上で死なれたのです。そしてこれらの節は、イエスが人であったというだけでなく、イエスが人でなければならなかった点も明らかにしています。16節から17節を見てください。16 **当然ながら、イエスは御使いたちを助け出すのではなく、アブラハムの子孫を助け出してくださるのです。17 したがって、神に関わる事柄について、あわれみ深い、忠実な大祭司となるために、イエスはすべての点で兄弟たちと同じようにならなければなりません**でした。ここには、もう一つの重要な真理が隠されています。ここで語られている大きなテーマは、イエスが御使いよりもすぐれた方であるということでした。そしてここでも、そのことが別の形で示されています。イエスは助けるために来られました。この後で見るように、その助けとは罪からの救いです。しかしイエスは御使いを助けるためではなく、「**アブラハムの子孫**」を助けるために、来られ

たのです。この表現については後でもう一度ふれますが、まずここではその最も基本的な意味を理解する必要があります。つまり、イエスが救うために来られたのは、御使いたちのためではなく私たち人間のためだということです。そこで17節はこう続きます。イエスは人間を救うために来られたのですから、「すべての点で兄弟たちと同じようにならなければならなかった」のです。ここから、イエスが「すべての点で」完全に人となられたことがはっきりと示されています。イエスの人間性は、天から来られたときに一時的に身にまとった仮の姿ではありませんでした。本当に人となられたのです。古代には「ドケティズム（仮現説）」と呼ばれる考えがありました。それは、イエスはただ人間のように見えただけで、実際には人間ではなく、人間のように見えていた神であるという考え方です。しかし初代教会の信条はこの考えを退け、聖書が語るとおり、イエスは完全に、そして真に人となられた方であることを明確にしました。

しかし、ここで気づいてほしいのは、イエスが人となられたのは、ただ犠牲となるためだけではなかったということです。その点については、この後の箇所ですらに詳しく見ていきます。ただ、ここでは、イエスが人となられたことによって、私たちの人間としての弱さをよく理解してくださるということを見ていきましょう。だからこそ、イエスは、あわれみ深く忠実な大祭司となられたのです。17節は、「あわれみ深い、忠実な大祭司となるために、…」と語っています。ヘブル人への手紙は、イエスがよりすぐれた祭司であることについて、この後も多くの時間をかけて語っていきます。後で詳しく見ることになりますが、イエスが私たちの大祭司であるということは、イエスが神である父の右の座に着き、私たちが神の子どもであることを父の前で取りなしてくださっているということです。イエスが大祭司として、してくださっていることを思うと、そのことのすばらしさに驚かされます。まるでイエスが父なる神に向かって、「ベン・ハワードにあわれみを注いでください。私は彼のために死に、すでにそのための犠牲をささげました」と、永遠に語り続けておられるかのようです。これが大祭司としてのイエスの役割です。もしあなたがイエスを主であり救い主として知っているなら、イエスはあなたと神の御怒りとの間に立ってくださる方です。イエスはただ犠牲をささげただけではありません。その犠牲を一度限り、神のすべての子どもたちのためにささげ、そして今もその犠牲を神の御座の前に示し続ける大祭司となられたのです。それは、私たちの罪がすでに支払われたことを示す永遠の証しなのです。私たちは本来、神の御怒りを受けるにふさわしい者です。しかし、罪への誘惑を私たちと同じように経験されたイエスは、そのような価値のない罪人にさえあわれみを示してください。そしてそのあわれみには期限がありません。効力が失われることもないのです。イエスは忠実な方であり、そのあわれみが尽きることも、私たちを見捨てることも決してありません。あなたがキリストを知る前に犯した罪であれ、キリストを知った後に犯してしまった罪であれ、赦されない罪はないのです。もちろん、もしあなたがキリストを知っているなら、聖霊はその罪についてあなたの心を責め、悔い改めと告白へと導くでしょう。しかしそれでもなお、イエスが流された血によるあわれみはあなたに与えられるのです。私たちの忠実な大祭司が、父なる神の御前にいつもおられ、その罪のためにすでにささげられた犠牲を指し示しておられるからです。ですからあなたが救いを失うことはありません。もちろん、神はすべてを完全に知っておられる方ですから、「とりなしをする」という言い方は正確ではないかもしれませんが。しかしそれは、イエスが私たちのためにしてくださっていることの意味をよく表しているのです。

しかしイエスは、私たちの罪に対してあわれみを示してくださるだけではありません。人となられたことによって、私たちがその罪に打ち勝つことができる道を示してくださいました。イエスは、最も厳しい誘惑を経験された方です。イエスが地上での働きを始められたとき、サタン自身と対峙され、サタンが差し出さるあらゆる誘惑を受けながらも、決して罪を犯されることはありませんでした。さらに十字架において、考えうる限りの苦しみの中にあっても、その十字架から降りて代価を払うことをやめるという誘惑に屈することは、決してなかったのです。古い讃美歌の中に次のような歌詞があります。「主は万の御使いを呼ぶこともできた、主は万の御使いを呼ぶこともできた、敵を滅ぼし、十字架刑から逃れるために、主は万の御使いを呼ぶこともできた、しかし あなたと私のために、ただひとりで死なれた」。イエスは、自ら進んで肉となり、完全に人となられ、誘惑を実際に経験されたがゆえに、私たちがどのように誘惑を感じるのかを、知っておられます。そして18節は、そのことが何を意味するのかをこう語っています。18 イエスは、自ら試みを受けて苦しまれたからこそ、試みられている者たちを助けることができます。イエスが私たちのために取りなしてくださ

る忠実な大祭司であるということは、私たちが誘惑からも救い出すことができるということを含みます。そして第一コリント10:13には、このように約束されています。13 **あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません。神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えていただきます。**そして私たちは、イエスがそうされたように、死に至るまで罪に抵抗するよう求められています。このヘブル人への手紙の後の12:3では、著者は私たちにこう語っています。3 **あなたがたは、罪人たちの、ご自分に対するこのような反抗を耐え忍ばれた方のことを考えなさい。あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないようにするためです。**4 **あなたがたは、罪と戦って、まだ血を流すまで抵抗したことはありません。**

しかし、イエスがこれほどのことをしてくださったにもかかわらず、すなわち人となられ、死にまで苦しみを受け、そして今もご自身に従う者たちが悪に抵抗できるよう力を与えてくださっているにもかかわらず、この真実を聞いてもなお、イエスを拒む人がいるのです。さらに15節では、「**一生涯奴隷としてつながれていた人々を解放するため**」に、イエスの死がどのような力を持つかについて語られています。ここで語られているのは、イエスの死がすべての人にとって救いを可能にするということです。イエスの血で覆えない罪を持つ人は、一人もいません。なぜなら、私たちはみな生まれたときから死の奴隷のもとに置かれているからです。そうであるなら、キリストを伝え、自分のために死んでくださった方に喜んで従うようになることは、簡単なことのように思えるかもしれません。しかし、この箇所が示している現実はそうではないのです。救いには、完全に人である救い主が必要であり、その方が、特定の人々を、この罪にある人間の状態から救うために来られたのです。このことが、15節に続く16節でさらにはっきりと示されています。16 **当然ながら、イエスは御使いたちを助け出すのではなく、アブラハムの子孫を助け出してくださるのです。**ここで私たちが見ているのは、「**特定の贖い (particular redemption)**」と呼ばれるものです。これは以前は「**限定的贖罪 (limited atonement)**」とも呼ばれていた考えで、基本的には同じ内容を指しています。つまり、キリストの死は、特定の人々を救うための贖いだという考え方です。もし私たちがすべての人の罪に対する普遍的な贖いを信じるのであれば、キリストとの関係にかかわらず、すべての人が救われるという普遍的救済をも同時に認めることになるでしょう。『ゴスペル・コアリション』の記事の中で、ケヴィン・デヤング牧師はこれを次のように説明しています。「**キリストの死は、全世界の罪を贖うのに十分であったが、それが実際に救いをもたらすようにと神が意図されたのは、永遠の昔から選ばれ、父によってキリストに与えられた者たちだけである。**」この贖いのために永遠の昔から選ばれた人々、それが**アブラハムの子孫**と呼ばれる人々です。イエスはその死によって救われる特定の人々とは、この人たちのことです。では、なぜ彼らは**アブラハムの子孫**と呼ばれるのでしょうか。ここにいる私たちの中で、キリストに従う者の多くはユダヤ人ではないでしょう。それにもかかわらず、この箇所は、私たちもまた**アブラハムの子**どもとして含まれていることをはっきりと示しています。新約聖書は、教会がイスラエルから始まった神の契約の民の継続であることを明確に語っています。ユダヤ人も異邦人も、ともに同じ一本の木、すなわちイエス・キリストにつながれているのです。ローマ人への手紙11:24はこう語っています。24 **あなたが、本来野生であるオリーブから切り取られ、元の性質に反して、栽培されたオリーブに接ぎ木されたのであれば、本来栽培された枝であった彼らは、もっとたやすく自分の元のオリーブに接ぎ木されるはずですが、私たち異邦人は、野生のオリーブとして接ぎ木された枝であり、ユダヤ人は本来の枝です。しかし、私たちは皆、イエス・キリストによって神の民とされているのです。ガラテヤ人への手紙3:7にはこう記されています。7 **ですから、信仰によって生きる人々こそアブラハムの子である、と知りなさい。**アブラハムの子孫と呼ばれる人がいるということは、そうではない人もいるということです。そうした人々は、キリストの死のもたらす恵みにあずかることができないのです。**

キリストの死によって救いにあずかることができるのは、アブラハムの子どもとされた者たちだけです。アブラハムの家族にどのようにして加えられるのか——それが、私が最後にお伝えしたい点です。アブラハムの子どもの一人となるためには、完全に人である救い主が必要でした。その方は、罪の状態にある私たち人間を救うために、特定の人々のために死なれたのです。イエスの犠牲が救う力を持つのは、ただ一つの理由によります。それは、その犠牲が私たちの罪に対する神の御怒りをなだめたからです。もう一度17節を見てください。17 **したがって、神に関わる事柄について、あわれみ**

深い、忠実な大祭司となるために、イエスはすべての点で兄弟たちと同じようにならなければなりませんでした。それで民の罪の宥めがなされたのです。私たちはこれまでもこの言葉、「宥めのささげ物 (propitiation)」について考えてきました。これは、神の怒りを鎮めるためにささげられる犠牲であり、本来その怒りを受けるべき者たちの代わりに、その犠牲の上に怒りが注がれるということです。すなわち、私たちの罪に対する神の怒りは、キリストの犠牲によって取り除かれたのです。私たちは、この真理を聖書の中で読み、あるいは教理問答で口にすることがあっても、この驚くべき福音の知らせの大きさを、十分に理解していないことが多々あります。私たちは完全に、そして徹底的に墮落しています。言い換えれば、罪は私たちの存在のあらゆる部分を支配しており、どれほど道徳的に見える善い行いでさえ、神の聖さの前では不潔な衣にすぎないのです。イザヤ書 64:6では、**6 私たちはみな、汚れた者のようになり、その義はみな、不潔な衣のようです。私たちはみな、木の葉のように枯れ、その咎は風のように私たちを吹き上げます。**と述べられています。ですから、イエスが私たちの罪をご自身で背負い、私たちが受けるべき神の裁きを担われたということは、私たちの理解をはるかに超えた真実なのです。この宥めのささげ物の恵みにあずかるには、ただ一つの道が用意されています。すなわち、自分の罪を認め、それを悔い改め、信仰をもってイエス・キリストに立ち返り、その方に従うことです。

このイエス・キリストへの信仰は、罪の赦しを通して、私たちの生き方を新しくしていきます。今年私たちが歌っている賛美歌「私の贖い主 (O Lord, my Rock and my Redeemer)」の第3節には、イエスが私たちの身代わりとなってくださった犠牲に対する、美しい応答が表されています。**主よ、わが岩、贖い主、失われたいのちの恵み深い救い主。私の罪と十字架は主の肩に置かれ、あなたは私の代わりに苦しみ死なれた。あなたはよみがえり死に打ち勝ち、罪と恥から解放してくださいました。主よ、わが岩、贖い主、すべての日において、御名に栄光がありますように。**この箇所が最後に私たちに語っているのは、完全に人となられた救い主が、イエス・キリストによってアブラハムの子どもとされた私たちの罪の代価を支払い、死なれたゆえに、私たちは罪に打ち勝ち、神に栄光を帰すことができるということです。**死の力を持つ者、すなわち、悪魔は滅ぼされた**と語られています。私たちは罪の奴隷状態から**解放**されました。そして、私たちは恵み深く真実な神のあわれみを示され、この地上の歩みにおいて罪と戦うために**助け手**を与えられました。神は人となりました。それは、私たちの罪が赦されるためであり、同時に、私たちがあわれみと赦し、そして思いやりを求めて立ち返ることのできるお方を与えるためでもあります。なぜなら、その方は私たちが経験するすべてを知っておられるからです。しかし私たちはあまりにも頻繁に、まるで何も変わっていないかのように生きてしまいます。教会に通うことはするかもしれませんが、職場や家庭、地域や友人との関わりの中で、イエスが私たちのためにしてくださいましたことについて語ることはほとんどありません。あなたのためにイエス以上のことをしてくださいました方は、誰一人としていません。では、あなたは誰に助けを求めますか。――イエスです。あなたは誰のために、思いと言葉と行いをもって生きようとしていますか。――イエスです。あなたは自分の人生における罪との戦いの中で、誰に頼りますか。――イエスです。罪と死はすでに打ち破られています。なぜなら、イエスが人となり、死に、そしてよみがえられたからです。この勝利に生きる者として歩んでいきましょう。祈りましょう

Hebrews 2:14-18 Jesus is the Better Human

Turn in your Bibles to Hebrews 2:14-18. Last week as we looked at the verses before these, the idea we focused on was that Jesus was the better brother. I wanted us to see from those verses that Jesus gives us a better family. But that premise begins with the understanding of the truth that Jesus became human, he became or took on flesh. We see this idea earlier in chapter 2 where it says in verse 9, **9 But we see him who for a little while was made lower than the angels, namely Jesus, crowned with glory and honor because of the suffering of death, so that by the grace of God he might taste death for everyone.** Jesus, the eternal Son of God, stepped out of Heaven's glory into a world of sin that ultimately rejected him and killed him as any common criminal. In his incarnation which we celebrate during Christmas, we are recognizing that God became human man. As the line of the hymn **In Christ Alone reminds us, He... "took on flesh, fullness of God in helpless babe."** The Apostle John describes the incarnation of Jesus the Word, with the beautiful words of **John 1:14, 14 And the Word became flesh and dwelt among us, and we have seen his glory, glory as of the only Son from the Father, full of grace and truth.** This humanity was important, in fact, it was necessary for Jesus to be one of us – both fully human and fully God. This is what we see in our passage today. **Salvation required a fully human savior, sent to save specific humans, from our human state of sin.** Jesus was that human, the better human. Let's read this passage as we begin.

¹⁴Since therefore the children share in flesh and blood, he himself likewise partook of the same things, that through through death he might destroy the one who has the power of death, that is, the devil, ¹⁵and deliver all those who through fear of death were subject to lifelong slavery. ¹⁶For surely it is not angels that he helps, but he helps the offspring of Abraham. ¹⁷Therefore he had to be made like his brothers in every respect, so that he might become a merciful and faithful high priest in the service of God, to make propitiation for the sins of the people. ¹⁸For because he himself has suffered when tempted, he is able to help those who are being tempted.

Jesus is the better human. **And this is important because it requires a fully human savior, to save specific humans, from our human state of sin.** There are three parts to this statement that we see made clear to us in this passage, and each part is important to our understanding of Jesus's humanity. The first idea in this passage is that **salvation requires a fully human Savior.** Remember verse 14 is following on the heels of the identification of Jesus as our better brother if we are part of his family. What makes that possible is that we share **"in flesh and blood"** as verse 14 says. For Jesus to be described as having flesh and blood means that he was fully human. If you cut him, he bled. If he stubbed his toe, it hurt. When they beat him with whips, pushed a crown of thorns into his head, and nailed his hands and feet to a rough wooden cross, real flesh was torn and real human blood poured out. A fully human man who experienced every bit of that pain just as any of us would, died on that cross. And these verses make clear not just that he was human, but that he had to be human. Look at verses 16-17, **¹⁶For surely it is not angels that he helps, but he helps the offspring of Abraham. ¹⁷Therefore he had to be made like his brothers in every respect...** This is an important truth here. Remember the larger subject here is that Jesus is better than angels. Here is one more aspect to that. Jesus came to help, as we will see that help is salvation from sin. But he did not come to help angels, he came to help **"the offspring of Abraham."** Now we will come back to this phrase later, but for now, we need to understand this phrase in its most basic meaning that those Jesus came to save were humans. Then verse 17 says that since he came to save humans, **¹⁷Therefore he had to be made like his brothers in**

every respect... This makes it clear that Jesus had to be fully human “in every respect.” Jesus’s humanity was not a costume he put on when he left Heaven. There was an ancient heresy called “Docetism” that said that Jesus only seemed to be human – he was God in human disguise. All the early Christian creeds attacked this view and made clear that Jesus was fully and truly human since that is what the Bible says.

But notice that Jesus’s humanity was not just for sacrifice. We will focus on that in the last two statements. But notice that Jesus’s humanity lets him understand so well our human condition that it defines his mercy and faithfulness that he shows us as our high priest. Verse 17 says, **so that he might become a merciful and faithful high priest in the service of God...** The book of Hebrews will spend a lot of time talking about how Jesus is the better priest. Without all the detail we will see later, Jesus being our high priest means that he sits at the right hand of God the Father and vouches or certifies to him that we are God’s children. It is an incredible thing that Jesus in his role as high priest is essentially eternally saying to God the Father, “have mercy on Ben Howard because I died and already made the sacrifice for him.” That is Jesus’s role as high priest. He is standing between you and God’s wrath if you know him as your Lord and Savior. He not only made the sacrifice, he then becomes the priest who brings that sacrifice made one time on behalf of all God’s children before God’s throne as eternal proof that our sins have been paid for. We deserve God’s wrath, but Jesus who knows the temptation that we face to sin offers mercy to undeserving sinners. And it is a mercy that doesn’t have a shelf life, no expiration date. He is faithful, his mercy will never quit and never let us down. There is no sin that you can commit either before you know Christ or after you know Christ that you cannot be forgiven for. Now, if you know Christ, the Holy Spirit will bring conviction and confession of that sin, but Jesus’s mercy through his shed blood will still be extended to you. You will not and cannot lose your salvation because our faithful high priest is continuously in God the Father’s presence “reminding” him of the sacrifice already made for that sin. And I know that “reminding” is not the right word for the God who knows everything perfectly but it captures the sense of what Jesus does for us.

But Jesus doesn’t just show mercy towards our sin, he strengthens us against that sin based on his humanity. Jesus knows the worst of temptation. He faced Satan himself at the beginning of his ministry on earth, and did not sin even when offered the best temptations Satan could produce. Then on the cross suffering the worst torment possible, he never gave into the temptation to get off that cross, to not pay the price. **There is an old gospel song that says, He could have called ten thousand angels. To destroy the world and set Him free. He could have called ten thousand angels. But He died alone for you and me.** And because he willingly took on flesh and became fully human, and suffered that temptation, he knows exactly what temptation feels like to us. And in verse 18 we are told that this means that... **because he himself has suffered when tempted, he is able to help those who are being tempted.** Jesus’s interceding on our behalf as our faithful high priest also means that he can rescue us from temptation. We are promised in **1Corinthians 10:13 that... No temptation has overtaken you that is not common to man. God is faithful, and he will not let you be tempted beyond your ability, but with the temptation he will also provide the way of escape, that you may be able to endure it.** And we are challenged to resist sin to the point of death in the way Jesus did. Later in this book in Hebrews 12:3, the writer will tell us to **3 Consider him who endured from sinners such hostility against himself, so**

that you may not grow weary or fainthearted. 4 In your struggle against sin you have not yet resisted to the point of shedding your blood.

But if Jesus was willing to go through all of this, becoming human, suffering death, and now empowering his followers to resist evil, why would anyone reject this once they hear of it. We are even told in verse 15 that Jesus's death is able to... **“deliver ALL those who through fear of death were subject to lifelong slavery.”** This is saying that Jesus's death makes salvation possible for everyone. There isn't one soul on earth that his blood is not capable of covering their sin, because all of us are under the slavery of death from the very day of our birth. This means that sharing Christ and seeing people joyfully follow the one who died for them should be a simple task, but the truth is that what we see in this passage is that is that **salvation requires a fully human savior, to save SPECIFIC humans, from our human state of sin.** We see this in the verse that follows verse 15, verse 16, **¹⁶For surely it is not angels that he helps, but he helps the offspring of Abraham.** What we see here is what we call “particular redemption.” There is an older term called limited atonement, and it has the same idea. What we are saying is that Christ's death only makes atonement for particular people. If we believed in universal atonement for sin, then we would believe in universal salvation for all people regardless of their relationship with Christ. **In an article for the Gospel Coalition, Kevin DeYoung defines this by saying: “The death of Christ was *sufficient* to atone for the sins of the whole world, but it was God's will that it should *effectively* redeem... only those who were chosen from eternity and given to Christ by the Father.”** Those who were chosen from eternity for this atonement are the **offspring of Abraham.** These are the specific humans that Jesus saves through his death. But why call them the **offspring of Abraham?** I'm pretty sure that none of us in here who are followers of Christ are Jewish, and yet it is clear from this passage that we are included in being described as **offspring, children, of Abraham.** The New Testament is clear that the church is the continuation of God's Covenant people that began with the nation of Israel. Both Jews and Gentiles are grafted into the same tree, Jesus Christ. **Romans 11:24 says, ²⁴For if you were cut from what is by nature a wild olive tree, and grafted, contrary to nature, into a cultivated olive tree, how much more will these, the natural branches, be grafted back into their own olive tree.** We gentiles are the wild, unnatural branches, and the Jewish people are the natural branches, but we are all the people of God through Jesus Christ. So we read in **Galatians 3:7 Know then that it is those of faith who are the sons of Abraham.** But this designation of being offspring of Abraham also means that there are those who are not from Abraham, so they do not share in the benefits of Christ's death.

The only ones who benefit from Christ's death are those who are children of Abraham through Jesus Christ. And what brings us into that family is the final point of this passage. Being one of Abraham's children requires a **fully human savior, who died to save specific humans, from our human state of sin.** Jesus's sacrifice is sufficient to save for one reason and one reason alone. It satisfies God's wrath against our sin. Look again at verse 17, **¹⁷Therefore he had to be made like his brothers in every respect, so that he might become a merciful and faithful high priest in the service of God, to make propitiation for the sins of the people.** We have discussed this word before – propitiation. It is a sacrifice of appeasement made to God so that God's wrath is poured out on that sacrifice rather than the ones who deserve it. So God's wrath against our sin is set aside on the basis of Christ's sacrifice. It is too easy for us to read this truth in scripture, and even affirm it perhaps in catechism, and not really grasp the incredible

and astonishing news that this is! We are completely and totally depraved. In other words, sin defines every part of our being and even our most moral acts of good are filthy rags in light of God's holiness. [Isaiah 64:6](#) says, [We have all become like one who is unclean, and all our righteous deeds are like a polluted garment. We all fade like a leaf, and our iniquities, like the wind, take us away.](#) So, for Jesus to take our sin on himself and bear the weight of God's judgment that we deserved is a thought beyond our comprehension. The only way this propitiation is applied to us is by recognizing our sin and repenting of it and turning in faith to follow Jesus Christ.

This faith in Jesus Christ then results in a changed life because our sin is forgiven. The third verse of a song we are singing this year, *O Lord, my Rock and my Redeemer* has this beautiful response to the truth of Jesus's substitutionary sacrifice for us. [O Lord, my Rock and my Redeemer. Gracious Savior of my ruined life. My guilt and cross laid on Your shoulders. In my place You suffered bled and died. You rose, the grave and death are conquered. You broke my bonds of sin and shame. O Lord, my Rock and my Redeemer. May all my days bring glory to Your Name.](#) What this passage is finally telling us is that because of a fully human Savior, who died for all of us who are children of Abraham through Jesus Christ, to pay for our sin, we can overcome sin and bring glory to God. We are told that [the one who has the power of death, that is, the devil...](#) is destroyed. We are [delivered](#) from [slavery](#) to sin. We are shown mercy from a [faithful](#) God, who is here to [help](#) us in our fight against sin in this life. God became man so we could be forgiven of sin AND have someone to turn to for mercy, forgiveness, and compassion because he knows everything we go through. But we too often live our lives like nothing has changed. We add church attendance, perhaps, but we are silent about what Jesus has done for us when we are at work, or in our homes, or in our neighborhoods or with our friends. There is no one who has done more for you than Jesus. So, who do you turn to for help? Jesus. And who do you live to honor with your thoughts, your words, your actions? Jesus. And who do you turn to in your fight against sin in your life? Jesus. Sin and death are already defeated because he became human and died and rose again for you and me. Let's live in light of that victory! Let's pray.